

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十五號

昭和十七年八月十一日(火)

海軍大臣官房

○令 達

官房第四八五三號

表彰内規中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十一日

海軍諸例
則登載

海軍大臣

第二號被表彰者(へ中)又ハ發明、考案、研究等ニ關シ
海軍技術有功章令ニ依ル海軍技術徽章授與ノ程度ニ至
ラザルモ其ノ功績顯著ナル者」ヲ削ル

(參照) 諸例則卷二、四八〇ノ三頁

官房第四八五四號

海軍技術有功章令ニ關スル内規中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十一日

海軍諸例
則登載

海軍大臣

第三號授與區分(イ)中「徽章」ヲ「有功章」ニ、「百圓」
ヲ「五十圓」ニ改ム

(參照) 諸例則卷二、四八〇ノ七頁

官房第四八五五號

臺灣高雄ニ漂着セル内火艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱
番號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和十七年八月十一日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數	別記	事
第一四八〇號	内火艇 (九米五)	馬公海軍軍需部 (高雄出張所用)	臨時 附屬	臺灣高雄燈臺附近ニ 漂着セル舊米岡内火 艇	

官房第四八五六號

大正六年官房第一二五一號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十一日

海軍大臣

新竹航空隊司令ノ次ニ左ノ項ヲ加フ

三重航空隊司令

六〇〇〇〇

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十五號 昭和十七年八月十一日

八五五

0774

(参照) 大正六年官房第一二五號ハ司令長官以下ニ於テ要スル按
符教定額設定ノ件ナリ(會計法規類集一卷一三三頁)

○通牒

海人第一號ノ一四〇

昭和十七年八月十日

海軍省 人事局長

關係各廳長殿

連絡部ニ勤務スル與亞院調査官ノ人事取扱ニ關スル件通牒

與亞院調査官ニシテ各連絡部ニ勤務スル定員外海軍武
官ノ人事ハ華北連絡部及華中連絡部ニ勤務スルモノニ
在リテハ支那方面艦隊司令部ニ於テ、厦門連絡部ニ勤
務スルモノニ在リテハ第二遣支艦隊司令部ニ於テ夫々
其ノ職員ニ準ジ之ヲ取扱フコトニ定メラレ候
追テ昭和十四年海人第一號ノ四八ハ自然消滅ノ義ト
了知相成度

○辭令

高雄州警備補 柳澤 十郎
海南警備府附ヲ免ス(十七海軍省)

○雜款

○司令潜水艦變更
第十九潜水隊司令ハ八月四日司令潜水艦ヲ伊號第五百
十六潛艦ニ變更セリ

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

宛 先 發送先
一 香取丸 横須賀郵便局氣付 (軍事郵便)

一 第二十四海軍通信隊 吳郵便局氣付

一 第二百二海軍建築部 吳郵便局氣付
(第二十五海軍軍用郵便所經由)

スラバヤ本部 〔七貳壹 七參八〕

バリツクパパン出張所 〔七參貳 七參八 七四參〕

マカツサル同 〔七四五 七參八 七四參〕

クーバン同 〔七壹貳 七參八 七四參〕

ケンダリ派出所 〔七壹四 七參八 七五八〕

サンガサンカ同 〔七壹九 七參八 七五八〕

バタバヤ同 〔七貳貳 七參八 七五八〕

デリー同 〔七壹八 七參八 七五八〕

0775

<p>メナド同 第三十一海軍航空隊 〔七壹壹セ參八七五八〕 吳郵便局氣付 〔テ貳壹テ壹九〕</p> <p>驅潛艇第十三號、第十四號、第十五號 橫須賀郵便局氣付 (軍事郵便)</p> <p>億洋丸 吳郵便局氣付 (第二十五海軍軍用郵便所經由軍事郵便)</p> <p>第十三號掃海隊殘務整理委員 橫須賀郵便局氣付 〔ウ參〇ウ貳九〕</p> <p>第五氣象隊 北海道厚岸郵便局氣付 〔ウ壹四四〕</p> <p>西安丸 吳郵便局氣付 (七四〇七貳壹經由軍事郵便)</p> <p>佐世保鎮守府第五特別陸戰隊 橫須賀郵便局氣付 〔ウ〇〇ウ壹四壹〕</p> <p>松長大佐事務所 吳海軍工廠總務部氣付 橫須賀郵便局氣付 〔ウ八六ウ壹貳六〕</p> <p>第一百六海軍航空廠 〔ルオット〕分工場 橫須賀郵便局氣付 〔ウ九壹ウ壹貳六ウ五八〕</p> <p>第一百六航空廠「ルオット」分工場 橫須賀郵便局氣付 〔ウ九壹ウ壹貳六ウ五八〕</p>	<p>第五測量隊 橫須賀郵便局氣付 (大湊郵便局經由) 〔ウ壹六七〕</p> <p>橫須賀鎮守府第一特別陸戰隊 吳郵便局氣付 (第二十五海軍軍用郵便所經由) 〔ウ壹六壹〕</p> <p>驅潛艇第十六號、第十七號、第十八號 橫須賀郵便局氣付 〔ウ壹〇五〕</p> <p>○練習生精神教育資料送付ニ關スル件 今次大東亞戰爭ニ於テ隨所ニ發揮セラレタル我海軍傳統精神ノ精華ハ其ノ實例不尠ト認メラレ候處右ハ練習生精神教育上ニモ得難キ貴重ナル資料ト被存候ニ付御手數乍ラ其ノ實情細大トナク通知方相煩度尙戰没水雷出身下士官兵遺品等ニテ分讓差支ナキモノ有之候ハバ一品ニテモ送付ヲ得度 (海軍水雷學校)</p> <p>○事務所設置 第三十四驅潛艇艦裝具事務所ヲ七月三十一日兵庫縣赤穂郡相生町播磨造船所内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p> <p>○事務所撤去</p>
---	--

海軍公報(部内限) 第四千六百六十五號 昭和十七年八月十一日

0776

海軍公報(部内限)第四百百六十五號 昭和十七年八月十一日

八五八

リ 伊號第百七十六潜水艦裝員事務所ヲ八月四日撤去セ

0777

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第四百六十六號

海軍大臣官房

昭和十七年八月十二日(水)

○通牒

經物第一四五號

昭和十七年八月十日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約者ニ關スル件通知

昭和十三年三月經物第一〇六號第一項第四號ニ依ル首題ノ件左記ノ通承認致候

記

會社名	所在地
亞鉛鐵板統制株式會社	東京市京橋區西八丁堀四ノ三
石塚忠吾(石塚組)	東京市豊島區堀之内町三二
株式會社岩田工務店	大阪市西區阿波堀通五ノ五
岩崎菊次郎	富士宮市大中里六三〇
大阪特殊製鋼株式會社	大阪市東區唐物町四ノ二九
大方三郎(大方工業所)	廣島市八丁堀六三
北多摩工業株式會社	東京市世田谷區若林町三三四
合資會社極東グーシ製造所	廣島市打越町二五〇
國華工業株式會社	東京市品川區北品川四ノ五〇
株式會社島藤	東京市深川區新大橋一ノ一一
關根松夫(市川商會)	東京市京橋區銀座四ノ二ノ一
大東鋼鐵工業株式會社	東京市京橋區寶町二ノ二三
株式會社津田製作所	金澤市泉本町ト一〇〇
日本線材製品統制株式會社	東京市麴町區丸ノ内二ノ二〇
株式會社フジマン製作所	東京市品川區大井伊藤町五六
丸富特殊鋼株式會社	東京市京橋區西八丁堀一ノ八

海軍公報(部内限)第四百六十六號 昭和十七年八月十二日

八五九

0778

軍需機密燃第三五七號

昭和十七年八月十日

海軍省兵備局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

ドラム罐回收ニ關スル件申進

燃料及潤滑油ノ容器タルドラム罐ノ回收ニ關シテハ昭和十五年官房第五九二號ニ依リ各部トモ充分注意セラレ居ル處ナルモ近時ドラム罐ニ依ル遠隔地供給ノ急増セルト且ツドラム罐資材ノ緊迫セル現狀ニ鑑ミ現地ニ累積腐蝕等ノコトナキ様尙一層留意シ極力之ガ回收ニ努メ内地最寄軍需部又ハ吳軍需部徳山支部及横須賀軍需部四日市支部宛直送又ハ轉送方取計相成度
追而修理再用ノ見込ナシト認ムルモノハ在八幡海軍監督官(日本製鐵株式會社八幡製鐵所)ニ送付方取計相成度

○ 辭 令

鐵道局技師 水嶋 太郎

徵用中自今年額貳千五百拾圓ヲ給ス(二十五年海軍省)

海軍艦政本部造兵監督官 兼造船監督官海軍大佐 石川 信

東京監理官ヲ命ス

東京監査官ヲ命ス

海軍艦政本部造船監督官兼造兵監督官海軍大佐

末宗 重雄

廣島監理官ヲ命ス

廣島監査官ヲ命ス

軍令部出仕兼海軍省出仕滿洲國在勤 出仕海軍機關大佐

原田 健四郎

京城監理官ヲ命ス

軍令部出仕兼海軍省出仕滿洲國在勤 帝國大使館附武官附海軍機關中佐

反保 慶文

京城監理官ヲ免ス

海軍艦政本部出仕兼海軍航空本部出仕海軍主計中尉

佐藤 欽也

東京監査官附ヲ命ス(以上同日同)

海軍中佐 岡村 於菟彦

第二課勤務ヲ命ス(同日同海軍省人事局)

0779

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第四百百六十七號

海軍大臣官房

昭和十七年八月十三日(木)

○令 達

官房第四九二二號

昭和十七年八月十三日

海軍大臣

關係所屬長官殿

靖國神社合祀未濟者調査ノ件訓令

支那事變ニ關シ昭和十六年十二月七日迄ニ死歿シタル左記該當ノ軍人軍屬ニシテ靖國神社ニ合祀未濟ノ者ヲ鎮守府司令長官ハ在籍特務士官以下ノ軍人及所屬軍屬ニ就キ、其ノ他ノ所屬長官ハ所屬軍屬ニ就キ調査ノ上別紙書式(戰死戰傷死者ハ甲號書式、病死災厄死者等ハ乙號書式)ノ名簿ニ戸籍抄本ヲ添へ來十一月三十日迄ニ本省ニ到達スル如ク提出スベシ

記

- 一 戰死又ハ戰傷ノ爲死歿シタル者
- 二 事變地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ自己ノ重大ナル過

失ユ因ラズシテ溺水又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死歿シタル者

- 三 事變地以外ノ地ニ於テ事變ニ關スル公務ノ爲溺水又ハ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死歿シタル者
- 四 事變地ニ於テ自殺シタル者等ニシテ其ノ情狀合祀ヲ至當ト認ムベキ者

備考

- (イ) 合祀名簿ハ事變別ニ且甲號、乙號書式毎ニ別冊トシ官等順ニ(同一官等ノモノハ死亡日ノ前後ニ依ル)假綴トシ各冊毎ニ一連名簿ヲ附ス
- (ロ) 官職位階勳等功級及死亡年月日等誤記スルコト無ク且重複提出ノ豫防ニ關シ「五十音別名簿」等ノ利用ニ依リ調査ヲ嚴ニシ絶對ニ重複提出ナキ様特ニ注意ヲ要ス
- (ハ) 合祀名簿提出後本省ニ於テ審査ノ間ニ論功行賞發表アリタル場合勳等功級訂正ノ要アラバ其ノ旨速ニ通報スルモノトス
- (ニ) 遺族ノ指定ハ妻子(庶子ヲ含ム)、相續人、父母、

海軍公報(部内限)第四百百六十七號 昭和十七年八月十三日

八六一

0780

祖父母、兄弟姉妹、伯叔父母、從兄弟ノ順位ニ依

ル但シ義兄姉妹ニハ及バザルモノトス尙上記ノ

血縁者ナキ場合ニハ故人ノ祭祀ヲ行フ者トス

(ホ) 死亡認定セラレタル者ニシテ死體未收容ノモノ

ハ死亡事由記載例ニ依ルノ外死亡認定ノ根據トナ

ルベキ事項ヲ詳記スルヲ要ス

(ヘ) 本名簿再提出ノ場合ハ各名簿上欄餘白ニ「再提

出」ト朱書スルモノトス

(ト) 本名簿ニ添附スベキ戸籍抄本ハ同一戸籍内ニ在

ル者ノ全員ノ名及續柄等(事項省略)並ニ本人死

亡事項ヲ記載シアルモノトス

(チ) 事變地トハ滿洲國(關東州ヲ除ク)及支那、佛

領印度支那方面ヲ謂フ

(別紙四葉添)

官房第四九二二號

昭和十七年八月十三日

海軍大臣

昭和十七年法律第二十三號及同年勅令第二百五十一號

ニ依リ海軍工廠資金會計ニ屬スル材料物品ヲ部外ニ賣

拂フ件ニ關シ左ノ通定ム

昭和十五年官房第四三八三號ハ之ヲ廢止ス

記

一 賣拂ハ隨意契約ニ依ル

二 官給ノ方法ニ依リ得ル場合ハ原則トシテ之ニ依ル

コトトシ賣拂ノ方法ニ依ルハ左ノ場合トス

(1) 官給ハ不可能ニ非ザルモ手續著シク繁雜ナル場

合若ハ特殊ノ事情ニ依リ官給ニ依ラザルヲ有利ト

スル場合

(2) 其ノ他賣拂ノ方法ニ依ラザレバ處理シ難キ場合

三 使用規正上特ニ必要ナル材料物品ノ賣拂ニ關シテ

ハ前三號ノ外海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ヲ

シテ別ニ通牒セシム

四 海軍工廠長、海軍航空技術廠長、海軍航空廠長及

海軍技術研究所長ハ毎月本號ニ依リ賣拂ヒタル材料

物品ヲ別紙様式ヲ以テ翌月十日迄ニ海軍省經理局長

及海軍艦政本部長又ハ海軍航空本部長ニ通報スベシ

(別紙添)

(参照) 海軍會計法規類集一卷六九五頁

○ 通牒

0781

官房機密第一〇二二二號

昭和十七年八月十三日

海軍次官

關係各廳長殿

敵性特許權處理ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ特許局長官ヨリ別紙ノ通牒有之候條
了知相成度

一七特總戰第七七號

昭和十七年七月二十四日

特許局長官

海軍次官殿

敵性特許權處理ニ關スル件

敵性特許權ノ處理方針ニ關シ七月十四日別紙ノ通敵性
特許權處理要領ノ閣議決定有之候處之ニ基キ速急ニ敵
性特許權ノ活用ノ途ヲ講スルハ現下ノ要請タル生産力
擴充並産業技術ノ振興上喫緊ノ急務ト被存候間之カ圓
滑ナル運用ニ關シ左記ノ點ニ御留意ノ上特別ノ御協力
ヲ賜度此段御依頼候也尙貴管下關係方面ニ對シテモ之
カ周知方御配意相成度候

記

海軍公報(部内限)第四千六百六十七號

昭和十七年八月十三日

八六三

一 取消シタル特許發明ニ付テハ生産力擴充並生産技
術ノ振興上極力其ノ發明ヲ利用セシムル様措置セラ
レ度キコト

二 特許ヲ取消シタル結果産業界ニ事業ノ濫立等ニ因
ル無用ノ混亂ヲ惹起スルコト無キ様未然ニ防止セラ
レ度キコト

三 特許ヲ取消シタル結果實施權ヲ喪失シ特ニ救済ノ
必要アリト認ムルモノニ對シテハ生産資材ノ優先的
配給、生産物ノ發註量ノ考慮等ニ依リ實施權者ノ保
護ニ關シ可然措置セラレ度キコト

(別紙)

敵性特許權處理要領 (昭一七、七、一四閣議決定)
(同日、一、般公表)

一 敵性特許權ガ大東亞戰爭遂行ニ伴フ我國生産擴充
上重大ナル關係ヲ有スルニ鑑ミ工業所有權戰時法ヲ
運用シ其ノ活用ヲ圖ル爲メニ特許ノ取消又ハ專用免
許ヲ爲スモノトス

二 敵性特許權ニシテ軍事上又ハ公益上ノ必要アルモ
ノハ其ノ特許ヲ取消スモノトス

三 左ノ如キ場合ニ於テハ一人又ハ數人ニ對シ専用免
許ヲ爲スモノトス

0782

- (イ) 特許發明ノ實施ニ關シ大ナル設備又ハ資金ヲ要スルモノ、相當ノ工業的中間試験ヲ爲スヲ要スルモノ、採算困難ナルモノ等専用免許ニ依リ國家ノ特別ナル保護ヲ受ケザレバ事業ガ成立セザルトキ
- (ロ) 専用免許ヲ爲スニ非ザレバ事業ノ濫立ヲ來タシ粗悪品ノ生産ヲ招來シ又ハ資材ノ浪費トナル虞アルトキ
- (ハ) 其他軍事上又ハ公益上等専用免許ヲ爲スヲ適當トスルトキ
- 四 一旦専用免許ヲ爲シタル激性特許權ニ付テモ必要ニ應ジ更ニ他ノ者ニ對シ専用免許ヲ爲シ又ハ當該專用免許ノ取消ヲ爲スコトアルモノトス

軍需機密需第三一三號

昭和十七年八月十一日

海軍省軍需局長

各海軍軍需部長殿

特種ノ艦營需品取扱ニ關スル件通牒

昭和十五年軍需機密需第一八八號特種ノ艦營需品取扱

ニ關スル件中左記ノ通訂正ス

追テ一、當分ノ間保有標準數量ニ不拘補充ヲ行ハズ

二、當分ノ間備考二、ニ依ル通報ヲ行ハズ

一 大要需、馬要需、鎮要需ヲ夫々大湊需、馬需、鎮需ニ改ム

二 主計長主管ノ部英文印字機、式典用天幕及式典幕ノ項ヲ削ル

三 航海長主管ノ次ニ左ノ項ヲ追加ス

砲主	式典用	組	三	一	一
術	天幕	一枚	三〇〇	三〇〇	三〇〇
長管	式典用幕	一枚	三〇〇	三〇〇	三〇〇

(参照) 艦營需品燃料取扱例規一七八頁

○ 辭 令

- 千八百參拾六圓 高木 榮雄
 千六百貳拾圓 山村 誠一
 千五百圓 西 仁太郎
 千參百八拾圓 松崎 豊三
 千參百貳拾圓 石田 茂
 千貳百拾貳圓 古畑 健次
- 徵用中年額各頭書ノ通ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

0783

(其四)海軍省

遞信技師 岸田 幸太郎
遞信局技手 松本 治作

同 松井 健次

同 青木 元治

同 井口 菊次郎

同 荒木 萬喜雄

同 江藤 魯一

同 國分 昇

遞信技手 府川 金次郎

同 池田 正

同 飯澤 房一

同 森本 尊夫

同 久保田 彦四郎

東京海軍通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス

事務員 松尾 清人

第六海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上ハ同)

遞信屬 佐藤 達也

第三課附ヲ命ス(其五)海軍省兵備局)

第二課勤務ヲ命ス(其六)同 海軍機關少佐 松崎 義森

第一課勤務ヲ命ス(其七)海軍省醫務局 菊地 豪

○雜 款

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

司令、隊機關長、軍醫長宛

主計長宛

不知火

霞 (第十八驅逐隊)

○事務所撤去

弘玉丸殘務整理事務所ヲ八月十二日撤去セリ

(別紙)

昭和 年 月 日

海軍省 海軍經理局長
海軍省 航空本部長
海軍省 航空本部部長 殿

工廠資金會計所屬材料物品部外賣拂ノ件通報

(昭和十七年八月十三日海軍公報(部内限))

應 長

月日	品名	數量	呼稱	原價		損減	賣拂價格		市價	賣拂材料物品 使用工事用途	賣拂先 事業主
				單價	金額		單價	金額			

0785

(別紙)

一連名簿ノ書式(用紙模造半葉野紙)

(昭和十七年八月十三日海軍公報(部内限))

支那事 號變	靖國神社合祀一連名簿	何 鎮 守 隊 等 府	氏 名
記	死亡年月日	論功行賞	官(職)
	昭、一六、一、一五	功六、單光	特少尉
	一、八	功五、旭六	空特少尉
	二、三	功六、青色	兵曹長
	"	旭七	一曹
	三、二七	賜金	"
	三、二九	功六、旭七	一整曹
	二、一	旭八	備人

(註) 名簿ハ二通ヲ要ス

0786

(別紙)

甲號書式(用紙美濃紙)

(昭和十七年八月十三日海軍公報(部内限))

靖國神社合祀海軍軍人軍屬名簿		何 鎮 守 府
又ハ 何 艦 隊 等		
官(職)位勳功爵氏名		
生 年 月 日		
本 籍 地		
遺 族	現住所	
所屬艦船部隊	續柄及氏名	
死 亡 事 由	軍艦何、第何驅逐隊、何特別陸戰隊、何航空隊等(准士官以上ハ上記ノ外艦隊又ハ鎮守府名等ヲ括弧内ニ記入ス)	
	昭和何年何月何日支那何省何地ノ戦闘ニ於テ腹部貫通銃創(何々)ヲ受ケ戦死又ハ	
	昭和何年何月何日支那何省何々空襲ノ際敵防禦砲火ヲ被リ何省何々地ニ突入(何々)戦死	
	又ハ	
	昭和何年何月何日支那何省何地ノ戦闘(匪賊討伐)ニ於テ左胸部貫貫砲彈彈片創(何々)ヲ受ケ負傷、何年何月何日何病院(何省何地)(何)ニ於テ該傷ニ因リ死亡又ハ	
	昭和何年何月何日支那何省何々空襲爆撃後行方不明トナリ何月何日戦死ト認定	
死亡年月日	昭和何年何月何日	

(註)

一 本名簿ニハ支那事變關係ニテ昭和十二年七月七日ヨリ同十六年十二月七日迄ノ間ニ於テ戦死又ハ戦傷ノ爲死歿シタル軍人軍屬ニシテ靖國神社ニ合祀未済ノ者ヲ記載ス

二 軍屬ニ在リテハ本記載例ニ依ルノ外死亡事由欄ニ戦死又ハ戦傷ヲ受ケタル當時ノ任務、死亡事由等合祀判定ノ基礎要項ヲ詳記シ同欄末尾ニ宣誓ノ有無及採用年月日、死亡時ノ舊官職名ヲ附記ス尙雇員、傭人等ニ在リテハ職名欄ヲ左ノ通記載ス

雇員(筆生)、傭人(工作手)、工員(鑄工職手)等

三 本名簿ハ一枚ニ一名限リ記載ス

0787

(別紙)

(昭和十七年八月十三日海軍公報(部内限))

乙號合祀名簿ニ貼附スル附箋書式

勤務廳	上海特別陸戰隊	首里丸	× 四、一、一五〇	三、八、一五〇	始期	終期	地方	勤務
					面	日數		
計								
發病年月日			昭和十五年九月十六日			一年十一月十日		
需診年月日及場所			昭和十五年十一月七日			首里丸		
死亡時傷病名			肺結核					
死亡場所及傷死 病死溺死等ノ別			吳病院			戰病死		
死亡年月日			昭和十六年二月四日					
記事			需診時ハ慢性氣管支炎					

(註)

一 事變地勤務

(イ) 艦船乗員ノ事變地勤務ハ加算調書記載ノ適當該艦船ノ加算始終期ニ依ル

(ロ) 赴任等ノ場合艦船便乗中ノ期間ハ除算シ着任ノ日ヲ以テ始期トシ退應ノ日(入院入室等ヲ命ゼラレタル場合ハ其ノ日)ヲ以テ終期トス

二 始終期ノ記載方法

(イ) 事變地ニ引續キ勤務ノ場合

連日引續キ事變地勤務ノモノハ其ノ最初ノ月日ト最後ノ月日トヲ記載シ勤務日數ヲ計算ス

(ロ) 連月事變地勤務アルモノハ途中ニ於テ一時内地歸着等ノ場合ニ於ケル始終期ノ記載方法ハ前號ノ通ナルモ日數ノ計算ハ一時内地歸着(事變地外勤務)ノ間ハ除算シ實際事變地ニ勤務セル日數ヲ算出ス

(加算調書ニ依ルコト)

此ノ場合別紙例示ノ如ク始終期欄ニ×印ヲ附ス

(別紙)

(昭和十七年八月十三日海軍公報(部内限))

乙號書式(用紙美濃紙)

靖國神社合祀海軍軍人軍屬名簿

又 何 鎮 守 府
何 鎮 守 隊 等

官(職)位勳功爵氏名	靖國神社合祀海軍軍人軍屬名簿	
	又 何 鎮 守 府 何 鎮 守 隊 等	
生 年 月 日		
本 籍 地		
遺 族	現 住 所	
	續柄及氏名	
所 屬 艦 船 部 隊	軍艦何、第何驅逐隊、何特別陸戰隊、何航空隊等(准士官以上ハ上記ノ外艦隊又ハ鎮守府名等ヲ括弧内ニ記入ス)	
死 亡 事 由	昭和何年何月何日ヨリ軍艦何乗組何方面ニテ事變勤務ニ從事中何年何月何日何方面(支那何省何地)ニテ公務ノ爲何病ニ罹リ何年何月何日何病院(何地)(何)ニ於テ死亡 又ハ 昭和何年何月何日ヨリ何陸戰隊勤務ノ處何年何月何日支那何省(何地)(何)ニテ何作業ニ從事中何江中ニ顛落溺水行方不明ト爲リ同日附死亡ト認定 又ハ 昭和何年何月何日支那何省何地何々ニテ荷物整理中砲彈破裂ノ爲即死 又ハ 昭和何年何月何日ヨリ何々ニテ事變勤務ニ從事中何年何月何日支那何省(何地)(何)ニテ公務ノ爲何病ニ罹リ何年何月何日兵役免除何年何月何日何病院(何地)(何)ニ於テ死亡	

(註)

- 一 本名簿ニハ支那事變關係ニテ昭和十二年七月七日ヨリ同十六年十二月七日迄ノ間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル軍人軍屬ニシテ靖國神社ニ合祀未済ノ者ヲ記載ス
 - (イ) 事變地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因ラズシテ溺水又ハ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死歿シタル者
 - (ロ) 事變地以外ノ地ニ於テ事變ニ關スル公務ノ爲溺水又ハ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死歿シタル者
 - (ハ) 事變地ニ於テ自殺シタル者等ニシテ其ノ情狀合祀ヲ至當ト認ムベキ者
 - 二 事變地以外ノ地ニ於ケル溺水、傷痕及疾病ニ依ル死歿者ハ事變ニ直接關係スル公務ニ基因シ事變功績特ニ顯著ナル者ニ就キ詮議ス
 - 三 傷痕、疾病ニ依ル死歿者ハ其ノ負傷又ハ發病ノ日ヨリ概ネ三年以内ニ於テ死歿シタル者ニ就キ詮議ス
 - 四 軍屬ニ在リテハ本記載例ニ依ルノ外死亡事由欄ニ溺水又ハ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務、死亡事由等合祀判定ノ基礎要項ヲ詳記シ同欄末尾ニ宣誓ノ有無及採用年月日、死亡時ノ舊官職名ヲ附記ス尙雇員、傭人等ニ在リテハ職名欄ヲ左ノ通記載ス
 - 五 雇員(通稱)、傭人(舟夫)、工員(一等検査員)等
 - 六 本名簿ニハ戸籍抄本ノ外事實證明書、現認證明書、診斷書、死亡診斷書等ノ書類(寫)ヲ添附ス
 - 七 兵役免除又ハ退職後自宅等ニ於テ死亡シタルモノハ前號ノ書類ノ外ニ地方醫師ノ診斷書ヲ添附ス
 - 八 本名簿ハ一枚ニ一名限リ記載ス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千百六十八號

海軍大臣官房

昭和十七年八月十四日(金)

○令 達

官房第四九三四號

報國號飛行機命名式左ノ通施行ス

昭和十七年八月十四日

海軍大臣

一 命名式舉行日時、場所

日時 昭和十七年九月二十日(日曜日)

一三〇〇(雨天翌日)

場所 後樂園スタジアム

二 命名スベキ飛行機番號、名稱、機種、獻納者住所

氏名(別紙)

三 命名式主務廳 海軍省軍務局

四 命名式委員長 海軍省軍務局第四課課長

(別紙添)

官房第四九三五號

當分ノ間紙打員(造船)ノ給與及勤務ノ特別措置ニ關

海軍訓例
別紙添
別紙添
別紙添

シ左ノ通定ム

昭和十七年八月十四日

海軍大臣

一 初給賃錢

海軍工作廳長ハ銚打員ニ對シ他ノ職種ノ工員ニ比シ

三級以內ノ高級ヲ以テ初給賃錢ヲ定ムルコトヲ得

二 臨時昇級

海軍工作廳長ハ現ニ在籍中ノ銚打員ニ對シ一人ニ付

十錢以內ノ豫算ヲ以テ昭和十七年八月二十一日附臨

時昇級ヲ行フコトヲ得

他ノ職種ヨリ銚打員ニ轉職スル工員ニ對シテハ必要

ニ應ジ一人當リ三級以內ノ臨時昇級ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル臨時昇級ハ次期定期昇級期ニ於

ケル昇級資格ヲ妨ゲズ

三 獎勵加給

銚打員ニ對スル獎勵加給ハ請負工事(工費請負ニ限

ル)ヲ爲ス場合ニ限リ海軍工員規則第六十三條第一

項ノ制限ヲ超エ之ヲ支給スルコトヲ得

海軍公報 (部内限) 第四千百六十八號

昭和十七年八月十四日

八六七

0790

四 特殊事業加給

銃打(造船)作業ニ對スル特殊事業加給ノ支給ニ當リテハ海軍工員規則附表第四號備考第四號ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

五 被服物品

作業遂行上必要アル場合ニハ作業手袋及地下足袋(通常物品)ヲ貸與スルコトヲ得

六 保健

海軍工作廳長銃打員ノ保健上必要アリト認ムルトキハ勤務精勵ナル者ニ對シ一月ニ付二日以内ノ休業ヲ許可スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ休業シタル日數ハ之ヲ缺勤日數ニ算入セズ

附則

本令ニ依ル給與ハ昭和十六年官房第五一四四號及其ノ施行細目ニ定ムル初給貸錢ノ制限外トス

官房第四九三六號

昭和十六年恩賜研學資金受賞者左ノ通定ム

昭和十七年八月十四日

海軍大臣

艦隊ノ防空ニ關スル研究

海軍少佐 千早正隆

艦上攻撃機分隊長トシテ主務訓練急速向上策

海軍大尉 田中正臣

驅逐艦水雷長勤務參考

海軍大尉 濱住芳久

航空通信術向上策

海軍大尉 中川俊

軍艦最上機械分隊長トシテ所掌機關ノ故障缺損防止上特ニ留意セル事項

海軍機關大尉 孝壽悟

比叡型戰艦ニ於ケル戰時治療準備法

海軍軍醫大尉 二宮春海

0791

潜水艦用連續空氣清浦法並ニ清淨劑ニ關スル研究
重工業材料參考書

海軍藥劑少佐 瀬川俊雄
海軍主計大佐 清水新一

(附)

左ノ對策ハ優秀ナルモノト認ム

艦船部隊ニ於ケル體育主任參考資料體育概況

海軍少佐 棚田次雄

摩耶型二十種砲發令所長勤務參考

海軍大尉 松山瑞穂

北洋警備驅逐艦(神風型)乗組兵科將校トシテ心得ベキ事項

海軍大尉 澤田孝夫

三座機塔乘電信員教育ニ就キテ

海軍大尉 三澤裕

長門型戰艦ニ於テ最適トスル晝間測的の法

海軍大尉 吉本謙一

霞型驅逐艦砲術長勤務上ノ參考

海軍大尉 石塚榮

驅逐艦陽炎水中測的兵器全能發揮ニ就キテ

海軍大尉 山口浩

九九式艦上爆撃機ノ使用實積ニ徴シ整備補給ノ見地ヨリ攻究シタル戰訓並ニ所見

海軍機關大尉 隈元勝彦

香取型練習巡洋艦裝備艦本式ホ號艦機構性能ノ檢討並ニ之ガ効力發揮法

海軍機關大尉 安田和生

最上型巡洋艦電力裝置ノ檢討並ニ戰闘能力發揮法

海軍機關大尉 安永稔

戰闘中艦内傷者處置具體策ニ關スル一私案

海軍軍醫大尉 肥田慶二郎

海軍公報(部内限) 第四百六十八號 昭和十七年八月十四日

八六九

官房機密第一〇一四八號
 當分ノ間港灣防備ノ任務ヲ有スル氣球班ノ氣球班長、
 同班長附及氣球班員タル下士官兵ニシテ職務ヲ以テ氣
 球ニ搭乘スル者ニハ氣球ニ搭乘シタル日數ニ應ジ航空
 加俸支給規則第一表日額甲ノ航空加俸ヲ支給ス但シ一
 月ノ加俸額ハ月額甲ヲ超ユルコトヲ得ズ
 昭和十七年八月十四日
 海軍大臣

○ 通牒

經給機密第一一四號
 昭和十七年八月十三日

海軍省 經理局

關係各廳御中

海軍戰時給與等ノ取扱方ニ關スル件申改
 正ノ件通牒

昭和十六年經給機密第四五號申左ノ通改正ス

記

記ノ次ニ左ノ題名ヲ附ス

海軍戰時給與等ノ取扱要領

第二一、(イ)甲地域第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
 但シ昭和十七年四月一日現在ニ於テ南島島又
 ハ新南群島ニ在リテ勤務中ノ者ニシテ從來支
 給セラレタル増俸ト僻地在勤加俸トノ合計額
 ガ特例給與規則第一表ニ依リ支給スル増俸ノ
 額ヨリ多額ナル場合ハ其ノ多額ヲ増俸トシテ
 支給ス

支給ス

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

同 (ハ)中「(別表一ノ第一乃至第三參照)」ヲ
 「(第二別表一ノ第一乃至第三參照)」ニ改ム

(ト)

手當金支給上注意ヲ要スル場合

- (一) 海軍工員臨時給與規則第四條ノ規定ニ依リ手當トシテ賃錢三十日分ノ支給ヲ受ケタル者戰地ニ派遣中技手ニ任官セラレタル場合ニ於テハ海軍戰時給與規則第九條ノ手當金ハ支給セズ
- (二) 戰地ニ在ル下士官(應召中ノモノヲ含ム)准士官ニ進級シ引續キ戰地ニ於テ勤務スル者ニ對シテハ派遣手當全額ヲ支給ス但シ進級ト同時ニ戰地外ニ轉勤ヲ命ゼラレタル場合ハ之ヲ支給セズ
- 應召中ノ下士官内地ニ在リテ准士官ニ進級シタル場合ハ海軍戰時給與規則第十條本文ニ該當スルモノトス
- (三) 戰地ニ在ラザルモ給與上戰地ト同様ナル取扱ヲ爲ス地ニ在ル者竝ニ内地ニ在ル外戰部隊ニ屬スル艦船及航空隊ニ在ル者戰地ニ派遣ヲ命ゼラレタル場合ハ給與上戰地間ノ移動ナルニ付派遣手當ハ更ニ支給ノ限ニ非ズ
- (四) 派遣手當ノ給與ヲ受クベキ者出發前死亡シ又ハ官ノ都合ニ依リ免ゼラレタルトキハ其ノ手當金ハ半額トス即全額支給ノトキハ半額、半額支給

ノトキハ更ニ其ノ半額、差繼支給ノ時ハ差繼支給額ノ半額ヲ支給ス

- (五) 戰地ニ於テ採用セラレタル場合ハ全額ヲ支給ス但シ戰地外ニ派遣ノ爲採用ノ場合ハ派遣手當ヲ支給セズ
- (六) 豫備役軍人等ニシテ其ノ官等ヲ保有スルモ囑託トシテ海軍ノ業務ニ從事スル者ハ現ニ其ノ官ニ在リテ奉職中ノ者ニ非ズ即昭和十二年勅令第四三五號別表備考第三號ノ「本官ヲ有スル者」ニ該當セザルヲ以テ囑託者トシテ定メラレタル手當金ヲ支給ス
- (七) 勅令上ノ文官待遇者ハ昭和十二年勅令第四三五號別表ノ額ヲ、部内限文官待遇者(囑託者)ニシテ本官ヲ有セザル者ハ昭和十七年官房第四〇〇四號別表ノ額ヲ支給ス
- 第三 特別ノ部隊又ハ特殊ノ場合ニ於ケル給與要領
- 一、現地各部ヘノ轉勤者ニシテ準備又ハ打合等ノ爲本邦(南鳥島、新南群島及南洋群島ヲ除ク以下第三中ノニ同ジ)内滞在中ノ者ノ給與
- 現地各部ヘノ轉勤者ニシテ本邦出發前準備又ハ打合等ノ爲海軍省其ノ他本邦所在各部ニ滞在スル者

ノ給與ハ左記ニ依ル

(イ) 増俵

戰地ニ向ケ出發ノ日ノ前日迄昭和十六年官房機密第一二六三九號及昭和十七年官房機密第二八二二號ニ該當スル者ヲ除キ海軍戰時給與規則第二條第一項ニ依ル増俵ノ半額ヲ支給ス

(ロ) 旅費

本邦内旅行滞在申ハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外所定ノ旅費ヲ支給ス但シ滞在地舊勤務廳所在地ト同一ナルトキハ旅費ヲ支給セズ

二、外戦部隊編入ノ航空隊移動中ノ給與

(イ) 移動先各地ヲ臨時勤務地トス但シ司令部職員ノ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ所屬艦隊司令長官ノ指定スル所ニ依ル(昭和十六年官房第七二一號)

(ロ) 給與支給區分第三別表二ノ第一ノ通

三、特設海上護衛隊職員ノ給與

(イ) 特設海上護衛隊司令部所在地ヲ勤務地トス但シ司令部ガ艦船内ニ在ル場合ハ海軍内國旅費規則第十四條第五號ニ依ル
各地派遣所ニ於テ勤務ヲ命セラレタル者(運航

統制ノ配置ニ在ル者ヲ除ク以下同ジ)ニ就テハ其ノ地ヲ臨時勤務地トス

(ロ) 司令部勤務員及各地派遣所勤務員ノ給與ハ陸上ニ於テ勤務スル場合ハ其ノ地ニ於ケル陸上勤務者ノ給與ニ同ジ

運航統制ノ配置ニ在ル者司令部所在地ニ歸著ノ日ヨリ出發ノ日迄ノ給與亦前項ニ同ジ

(ハ) 運航統制ノ配置ニ在ル職員其ノ職務ヲ以テ行動スル場合ノ給與ハ左記ニ依ル

(一) 増俵

司令部所在地出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄ノ期間ニ於ケル増俵ハ第二別表一ノ第二中戰地ニ在ル艦船乗員ノ出張ノ場合ニ同ジ

(二) 航海加俵及食料

船舶ニ乗船中ハ同船舶ニ乗船ノ日ヨリ退船ノ日迄同船舶ニ付定ムル航海加俵及食料ヲ支給ス(昭和十七年官房機密第九三一四號決裁)

司令部ガ艦船内ニ在ル場合同艦船ニ歸艦ノ日ヨリ出發ノ日迄同艦船ニ乗艦指定ノ司令部職員ノ給與ニ同ジ

(三) 旅費

司令部所在地又ハ艦船出發ノ日ヨリ歸著ノ日迄ノ間ニ於テ本邦内陸上ニ宿泊スル場合ハ第三別表三ノ第一ニ依リ支給ス

前項ニ該當スル者本邦下戰地間又ハ戰地相互間ヲ旅行スル場合ノ旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル(昭和十七年官房機密第九三一四號決裁)

四、武装商船ニ配員セラレタル者ノ給與増 俸

(イ) 警戒任務ノ爲所屬應出發ノ日ヨリ任務終了シ歸著ノ日迄(二)ニ該當スル期間ヲ除キ昭和十七年官房機密第二八二二號ニ依ル増俸ヲ支給ス(昭和十七年官房機密第九三一三號決裁)

(二) 特例給與規則第一條ニ掲グル地域ニ往復スル場合ハ該地ニ向ケ本邦最終港灣出航ノ日ヨリ初メテ本邦港灣ニ歸著ノ日迄海軍戰時給與規則第二條第一項、大正七年勅令第三九五號又ハ昭和十二年勅令第四三五號ニ依ル増俸ヲ支給ス(昭和十七年官房機密第九三一三號決裁)

(ロ) 戰時特別給與品

(イ)ニ該當スル期間特例給與規則第十二條ニ依リ之ヲ支給ス(昭和十七年官房機密第九三一三號決裁)

(ハ) 旅費、航海加俸及食料
警戒任務ノ爲派遣セラレ商船ニ乗船中ハ航海加俸及食料ヲ支給ス但シ本邦内ニ於テ陸上ニ宿泊スル場合ハ其ノ間第三別表三ノ第一ニ依リ旅費ヲ支給ス

商船ニ乗船又ハ任務ヲ終ヘ復歸ノ爲勤務地ト該商船碇泊地間ヲ旅行スル場合ハ海軍内國旅費規則ニ依リ同規則第五表ノ旅費ヲ支給ス但シ本邦ト戰地間又ハ戰地相互間ヲ旅行スル場合ノ旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル(昭和十七年官房機密第九三一三號決裁)

五、戰地ニ於テ教育セララル新兵ノ給與
戰地ニ在ル部隊ニ於テ教育セララル新兵ノ給與ハ左記ニ依ル

(イ) 増 俸
戰地ニ向ケ出發ノ日ヨリ海軍戰時給與規則第二條第一項ニ依ル額ヲ支給ス
新兵教育終了シ各部ニ配屬セララル場合ハ左ノ

海軍公報(部内限)第四千六百六十八號 昭和十七年八月十四日

八七三

0796

區分ニ依ル

(一) 新兵教育終了ノ日ヨリ配屬先到著ノ日迄ハ第二別表一ノ第二中新兵教育實施部隊ノ所在地該當ノ戰地ニ在ル艦船ヨリ各地ニ轉勤ノ場合ノ支給區分ニ依ル

(二) 教育實施部隊ニ補缺員トシテ殘留スル場合ハ其ノ日ヨリ當該部隊ニ配屬セシメラレタル者ニ同ジ

(ロ) 戰時特別給與品

教育實施部隊ニ到著ノ日ヨリ之ヲ支給ス

六、艦船沈没後ニ於ケル乗員ノ給與

(イ) 増 俸

内地ニ歸還スル者ニ在リテハ歸著ノ日迄、戰地ニ於テ轉出スル者ニ在リテハ轉出ノ日迄、戰地ニ於テ殘務整理ニ從事中ノ者ハ其ノ期間海軍戰時給與規則第二條第一項ノ増俸ヲ支給ス
解役命令受領前内地ニ於テ殘務整理ニ從事スル場合其ノ期間海軍戰時給與規則第二條第一項ノ増俸ノ半額ヲ支給ス

(ロ) 航海加俸

解役命令受領ノ日迄又ハ解役命令受領前轉出ス

ル者ニ在リテハ轉出ノ日迄該艦船乗員トシテ受クベカリシ加俸ヲ支給ス陸上部隊ニ於テ起隊又ハ假入隊シ殘務整理中解役前ノ場合ニ於ケル加俸ニ付亦同ジ

(ハ) 旅 費

旅行ヲ爲シ特ニ實費ヲ要スル場合ハ昭和十七年官房第九七二號第三號ヲ準用ス但シ内地ニ在リテハ海軍内國旅費規則第三十三條本文ニ依ル轉勤又ハ旅行ヲ命ゼラレタルトキハ命令受領ノ日ヨリ所定ノ旅費ヲ支給ス

七、豫備員候補者ノ給與

豫備員候補者トハ海軍ニ於テ教育中ノ豫備學生、豫備生徒、豫備練習生及豫備補習生ヲ謂フ(給與令第二條)

(イ) 豫備員候補者ノ教育ハ内地ニ於テ教育シ教育期間中外地ニ派遣セララルコトナキヲ原則トスルモ教育ノ一部トシテ外地殊ニ戰地ニ派遣セララル場合ト雖モ戰時増俸及派遣手當ハ之ヲ支給セラレズ

(ロ) 旅費ハ海軍内國旅費規則、海軍南洋群島關東州滿洲旅費規則及海軍外國旅費規則ニ依ルモ豫

0797

備學生ニシテ海軍省ヨリ派遣セラルル場合ハ昭和十七年官房第二七〇四號ニ依リ支給ス

(ハ) 艦船、團隊、學校又ハ病院以外ノ陸上各部ニ派遣セラレタル場合ハ陸上勤務外宿中ノ下士官兵ニ準ジ食數ニ應ジ食料ヲ支給ス

(ニ) 右以外ノ給與ハ第三別表七ノ第一海軍豫備員候補者給與支給區分ニ依ル

八、海軍ノ戰時衛生勤務ニ從事スル日本赤十字社救護員ノ給與(昭和十七年官房第三五四二號)

(イ) 救護員ノ海軍ニ於ケル給與支給ノ標準左ノ通

救護醫員、救護調劑員、救護主事、救護看護婦監督
 奏任官待遇囑託
 救護書記、救護調劑員補、救護看護婦長、救護看護人長
 判任官(四等)待遇囑託
 救護看護婦、救護看護人 雇員(職名ヲ附セズ)
 其ノ他ノ者 傭人(同)

(ロ) 本邦内ニ在ル病院等ニ配屬セラレ戰時衛生勤務ニ従事スル場合ハ特定ムル場合ヲ除キ凡テ日本赤十字社ノ負擔トス

(ハ) 戰地ニ在ル病院等ニ配屬セラレ戰時衛生勤務ニ従事スル場合ニ於ケル給與ハ特定ムルモノ

ヲ除キ昭和十七年官房第三五四二號ニ依リ海軍ニ於テ支給ス

(一) 手當金

日本赤十字社ノ規定ニ依ル俸給又ハ給料ト増俸トノ合計相當額ヲ海軍ノ指揮下ニ入りタル日ヨリ内地又ハ外地ニ歸還シ解散ノ日(海軍病院ニ入院中ノ者ハ退院ノ日)迄支給ス

昭和十七年官房第三五四二號第四條ニ該當スル場合ハ月額五圓五十錢以内ヲ手當トシテ増額スルコトヲ得

(註) 日本赤十字社戰時救護規則及日本赤十字社救護員戰時給與規則參照

増俸

(1) 救護醫員、救護調劑員、救護主事、救護看護婦監督 俸給ノ2/5

(2) 救護書記、救護調劑員補、救護看護婦長、救護看護人長 俸給又ハ給料ノ2/4

(3) 救護看護婦、救護看護人 給料ノ2/4

(4) 其ノ他ノ者 給料ノ2/5

(二) 派遣手當

海軍公報(部内限) 第四千六百六十八號 昭和十七年八月十四日

八七五

支給セズ
但シ日本赤十字社ニ於テ手當トシテ俸給又ハ
給料一ヶ月分ヲ支給ス

(三) 食料又ハ糧食
糧食ヲ給與シ難キトキハ勤務廳ニ付定ムル食
料ヲ支給ス
支給要領ハ第二、四、食料又ハ糧食ノ部ニ定
ムル所ニ依ル

(四) 被服及同保續手當
支給セズ
但シ日本赤十字社ニ於テ支給ス

(五) 宿舍又ハ宿舍手當
宿舍ヲ貸與ス
所轄長特ニ必要ト認ムルトキハ宿舍ニ代ヘ宿
舎手當ヲ支給スルコトヲ得
支給要領ハ第二、三、宿舍(宿舍手當)ノ部
ニ定ムル所ニ依ル

(六) 戦時特別給與品
支給セズ

(七) 旅 費
海軍内國旅費規則、海軍南洋群島關東州滿洲

訂正
第二別表二ノ第一航海加俸支給區分第四欄ノ航海加
俸ヲ受クベキ沿岸及海域ノ部第三海域西經一五〇度
以西、東經七〇度以東、南緯三〇度以北但第一及第
二海域ヲ除クノ項中「第四欄」ヲ「給三七」ノ「海域内ノ地點發
航ノ日ヨリ第四欄ト特給第二表ノ額ト比較シ多額支
給」(特給三)
昭和十七官房機密三七七七、二號ニ訂正ス

(八) 航海加俸
旅費規則、海軍外國旅費規則及昭和十七年官
房第九七二號ニ依リ支給ス
病院船勤務中モ支給セズ

○ 辭 令
臺灣總督府技手 武山 信夫
同 川上 筑柴
(各通)

(別表三葉添)

海南警備府附ヲ命ス <small>(十四日 海軍省)</small>	同	鬼丸 藤夫
海南警備府附ヲ命ス <small>(十五日 同)</small>	櫻井 芳次郎	
海南警備府附ヲ命ス <small>(二十日 同)</small>	臺灣總督府技師 上田 信	
兼海軍省兵備局附ヲ命ス <small>(十八日 同)</small>	海軍選給部附録 道調査部技師 山田 政次郎	
海軍豫備學生採用試験委員ヲ命ス	海軍中佐 角田 光揚	
	海軍中佐 島内 吉次	
	同 大石 新一	
	同 下田 久夫	
	同 井上 士郎	
	同 菅井 武雄	
	同 谷口 俊雄	
	同 芳根 廣雄	
	同 猪口 力平	
	海軍少佐 望月 嘉一	
	同 碓 壯次	

昭和三十七年度海軍豫備學生採用試験臨時委員ヲ命ス	同	牛尾 義隆
海軍豫備學生採用身價検査委員ヲ命ス	同	西林 克己
	同	宮崎 新作
	同	江藤 恒丸
	海軍機關中佐	臺 山 男
	同	奥本 善行
	同	岡田 兵二郎
	海軍機關少佐	丸山 正雄
	同	赤尾 勝
	同	藤原 一郎
	同	坂野 鶴一
	同	猪原 武城
	海軍機關大尉	樺山 末雄
	同	岡田 成正
	同	本藤 三芳
	同	福田 英夫
	同	石原 格太郎
	同	則近 讓治
	海軍軍醫中佐	佐々木 佳一

海軍公報(部内限) 第四百百六十八號 昭和十七年八月十四日

八七七

海軍軍醫少佐 久保 正
 同 田淵 義三郎
 同 笠間 亥九郎
 海軍軍醫大尉 福田 禮之
 同 林 正義
 同 高井 英一郎
 同 丸田 吉人
 同 武藤 三男
 同 田山 太郎
 同 酒井 文三
 同 羽生 敏久
 同 新藤 英夫
 同 窪田 歷三郎
 同 吉場 仟録
 同 千葉 豊
 同 河野 左宙

(各通)

昭和十七年度海軍豫備學生採用身體検査臨時委員ヲ命ス(以上ハ海軍省)

○ 雜 款

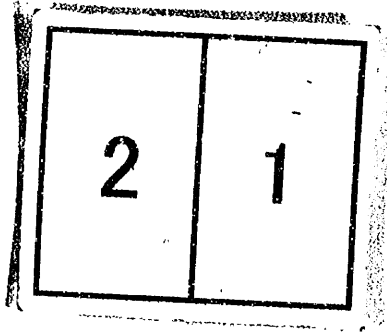
○ 旗艦變更
第二航空戰隊司令官ハ八月十二日旗艦ヲ飛鷹ニ變更セリ

○ 事務開始
第三百海軍航空廠ヲ八月一日「マニラ」ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○ 電話架設
海軍氣象部
電話丸ノ内 七〇七一番 七〇七二番

○ 正誤
本月十四日號外判決中六頁上段十五行目「第一項」ノ下ニ「前段」ヲ脱ス

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	献納者区分表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

(別紙)

(昭和十七年八月十四日海軍公報(部内限))

報國番號	名	種	機	種	獻納者住所氏名
第五六二號	西松組	艦上戰鬥機	同	同	東京市芝區西久保櫻川町十三 代表取締役社長 林米七
第五六三號	堀井	同	同	同	東京市四谷區大番町七八 堀井章一
第五六四號	芝機工	同	同	同	東京市芝區本芝四丁目五番地 芝機工號獻納者 岩崎清七
第五六五號	日本増場	同	同	同	東京市芝區山下町五三 代表取締役社長 岩崎清七
第五六七號	機械工聯	同	同	同	東京市芝區有樂町一ノ五 日本機械製造工業組合聯合會 理事長 長田清治郎
第五六八號	第二中野	同	同	同	東京市日本橋區小網町二ノ二 合資會社中野商店 代表取締役 中野常次郎
第五六九號	岩波	同	同	同	東京市日本橋區錦町二ノ六 岩波茂雄
第五七八號	東京織物	同	同	同	東京市日本橋區錦町二ノ六 東京織物小賣商組合
第五七九號	明治製革	同	同	同	東京市九ノ内二ノ一四 明治製革株式會社 取締役社長 鈴木重成
第五八〇號	東京紙製品	同	同	同	東京市日本橋區本町四ノ六 東京紙製品工業聯合會 東京紙工業品工業聯合會 東京紙工業品卸商業組合
第五八二號	第二帝國生命	同	同	同	東京市芝區九ノ内一ノ一 帝國生命保險株式會社 從業員 竝ニ關係者一同
第五八三號	參松	同	同	同	東京市日本橋區小網町二ノ三 參松工業株式會社 理事長 山長次郎
第五八六號	足袋工聯	同	同	同	東京市日本橋區小網町二ノ三 全日本足袋工業組合聯合會
第五八八號	日本鑛業	同	同	同	東京市芝區田村町日産館内 日本鑛業株式會社 從業員 貝一同
第五九三號	特免織物	艦上爆撃機	同	同	東京市芝區本町三ノ八 日本特免織物製造株式會社 社長 羽生雅則
第五九六號	全日本莫大小	同	同	同	東京市芝區本町三ノ八 全日本莫大小卸商業組合 代表 小杉佐右衛門
第五九九號	第三市田	同	同	同	東京市日本橋區扇町二丁目 株式會社 市田商店
第六〇〇號	王電	同	同	同	東京市芝區西馬場三ノ九六五 王子電氣軌道株式會社 取締役社長 本間利雄
第六〇一號	第一神道、佛教、基督	陸上攻撃機	同	同	東京市芝區芝公園第十一號地木邊孝氣付 神道教派聯合會
第六〇二號	第二神道、佛教、基督	艦上爆撃機	同	同	東京市芝區芝公園第十一號地木邊孝氣付 大日本佛教聯合會
第六〇三號	第三神道、佛教、基督	艦上戰鬥機	同	同	日本基督教聯合會
第六〇四號	第四神道、佛教、基督	同	同	同	
第六〇五號	第一東信電氣	陸上攻撃機	同	同	東京市芝區本町一ノ七 東信電氣株式會社 取締役社長 鈴木忠治
第六〇六號	第二東信電氣	艦上爆撃機	同	同	東京市芝區本町一ノ七 東信電氣株式會社 取締役社長 鈴木忠治
第六〇七號	第三東信電氣	艦上戰鬥機	同	同	
第六〇八號	第四東信電氣	同	同	同	
第六一四號	第一護謨工聯	同	同	同	東京市芝區通新町六 日本護謨工業組合聯合會
第六一五號	第二護謨工聯	同	同	同	
第六一六號	第三護謨工聯	同	同	同	
第六一八號	東京市立學校	艦上爆撃機	同	同	東京市芝區本町九ノ内三ノ四 東京市立學校職員生徒兒童園兒 東京市教育局職員一同
第六二一號	共榮石油	艦上戰鬥機	同	同	東京市芝區本町九ノ内三ノ四 共榮石油株式會社 取締役社長 橋本圭三郎
第六二三號	東京靴下工業	同	同	同	東京市芝區本町二ノ一 東京市芝區靴下工業組合 理事長 小林雅一
第六五二號	第一清水組	艦上爆撃機	同	同	東京市芝區本町二ノ一 株式會社清水組 取締役社長 清水康雄
第六五三號	第二清水組	同	同	同	
第六六八號	全國中學校	同	同	同	東京市芝區本町二ノ二八 全國中學校第一中學校內 代表府立第一中學校職員生徒一同 代表理事 生隆
第六七〇號	日本棉スフ織物	艦上戰鬥機	同	同	東京市芝區本町三ノ八 日本棉スフ織物工業聯合會 代表理事 生隆
第六七一號	荏原製作所	同	同	同	東京市芝區本町三丁目 株式會社荏原製作所 社長及從業員一同
第六七五號	日産化學	同	同	同	東京市芝區本町三丁目 日産化學株式會社 取締役社長 石川一郎
第六八四號	日本美術	同	同	同	東京市芝區本町五二 日本美術株式會社 代表理事 石川一郎
第六八五號	荏原組	同	同	同	東京市芝區本町一ノ八 株式會社荏原組 代表 荏原房吉

0803 0802

第九八三號	第三全國國民學校兒童教職員號	同	澤 留
第八八八號	第二全國國民學校兒童教職員號	同	澤 留
第八八七號	第一全國國民學校兒童教職員號	同	澤 留
第八四一號	報 國 寫 真 師 號	同	日 本 寫 真 師 團
第八四〇號	東 京 生 菓 子 號	同	東 京 生 菓 子 組 合
第七二八號	第 二 龜 戶 コ ー ス 號	同	東 京 市 東 區 龜 戶 コ ー ス 組 合
第七二四號	東 京 洋 服 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第七二三號	內 田 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第七一九號	第 一 華 北 交 通 機 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第七一八號	第 二 華 北 交 通 機 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第七一三號	日 本 書 家 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六九一號	日 本 印 刷 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六九〇號	全 國 石 油 販 賣 協 會 號	同	全 國 石 油 販 賣 協 會
第六八八號	山 本 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六八七號	シ ョ ー エ ー ル 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六八六號	瀧 富 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六八五號	笠 原 組 産 報 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六八四號	日 本 美 術 院 號	同	日 本 美 術 院
第六七五號	日 産 化 學 號	同	日 産 化 學 株 式 會 社
第六七一號	荏 原 製 作 所 號	同	荏 原 製 作 所
第六七〇號	日 本 棉 ス ー 織 物 號	同	日 本 棉 ス ー 織 物 株 式 會 社
第六六八號	全 國 中 學 校 號	同	全 國 中 學 校 組 合
第六五三號	第 一 清 水 組 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六五二號	第 二 清 水 組 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六二三號	東 京 靴 下 工 業 號	同	東 京 市 神 田 區 錦 町 一 丁 日 本 特 許 縫 製 物 製 造 株 式 會 社
第六二一號	共 榮 石 油 號	同	共 榮 石 油 株 式 會 社
第六一八號	東 京 市 立 學 校 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六一六號	第 三 護 謨 工 聯 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六一五號	第 二 護 謨 工 聯 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇八號	第 四 東 信 電 氣 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇七號	第 三 東 信 電 氣 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇六號	第 二 東 信 電 氣 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇五號	第 一 東 信 電 氣 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇四號	第 四 神 道、佛 教、基 督 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇三號	第 三 神 道、佛 教、基 督 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇二號	第 二 神 道、佛 教、基 督 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第六〇一號	第 一 神 道、佛 教、基 督 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第五九九號	王 電 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第五九八號	第 三 市 田 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第五九六號	全 日 本 英 大 小 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第五九三號	特 免 織 物 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第五八八號	日 本 鑛 業 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合
第五八六號	足 袋 工 聯 號	同	東 京 市 立 學 校 組 合

(第三別表二ノ第一)

(昭和十七年八月十四日海軍公報(部内限))

航空隊 所在地	移動先		外戦部隊編入ノ航空部隊移動中ノ給與支給區分
	給與	移動先	
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク	本邦(朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク)	旅費 他	特別給與規則第一條ニ定ムル各地
	増俸、在勤地在勤手當	旅費 他	
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク	原所在地勤務中ト變更ナシ	旅費 他	旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル
	増俸、在勤地在勤手當	旅費 他	
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク	原所在地勤務中ト變更ナシ	旅費 他	旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル
	増俸、在勤地在勤手當	旅費 他	
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク	原所在地勤務中ト變更ナシ	旅費 他	旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル
	増俸、在勤地在勤手當	旅費 他	
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク	原所在地勤務中ト變更ナシ	旅費 他	旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル
	増俸、在勤地在勤手當	旅費 他	
朝鮮、臺灣、關東州、樺太及僻地在勤手當支給ノ地ヲ除ク	原所在地勤務中ト變更ナシ	旅費 他	旅費ハ昭和十七年官房第九七二號ニ依ル
	増俸、在勤地在勤手當	旅費 他	

0804

(第三別表三ノ第一)

(昭和十七年八月十四日海軍公報(部内限))

考 備	旅費日額表	
	甲額	乙額
一 本表甲額ハ陸上ニ宿泊スル場合日數ニ應ジ之ヲ支給ス但シ官ヨリ宿舍ヲ貸與シタルトキハ乙額トス		
二 官ヨリ糧食ヲ給與シタルトキハ一食ニ付三十錢ヲ減額ス		
大 佐	七七〇	五五〇
中 佐	六四五	四二五
准 士 官	三八五	二六五
一 等 下 士 官	二九五	一九〇
二 等 下 士 官	二七五	一七〇
一 等 兵	二三五	一五〇
二 等 兵	二二〇	一三五

0805

海軍豫備員候補者給與支給區分		豫備學生			豫備生徒			豫備練習生			豫備補習生			
		兵科	飛行科	整備科	機關科	航海科	機關科	航海科	飛行科	整備科	機關科	工機兵	作調	科科科
基本手当	部隊又ハ學校ニ入隊、入團又ハ入校ノ日ヨリ學生ヲ免ゼラレ又ハ教程修了ノ日迄支給ス (給與令施行細則第六〇條ノ四)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	月額 一五圓 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)	日額 一五錢 (給與令第五一條)
航空隊ニ於テ教育中 (航空手当)	支給區分ハ前項ノ基本手当ニ同ジ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
入院轉地療養中	入院ノトキハ其ノ翌日ヨリ退院ノ前日迄 轉地療養ノトキノ出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日迄支給ス (給與令施行細則第六〇條ノ五及同第五六條)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
留置、拘留、處刑中、被告事件 送中、私事ニ依リ勤務場ニ在ラザルトキ	支給 停止 (給與令第五一條ノ三)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
入隊ノトキ	交付又ハ給與ス (給與令第七六條ノ三 同細則第九〇條ノ三 同第八表ノ四)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
退隊ノトキ	還付セシム (給與令施行細則第九一條)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
死亡ノトキ	交付ス (給與令第七七條)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
糧食	左ノ場合ニ給與ス (給與令第八〇條) (一)艦船乗組又ハ艦船便乗中 (二)部隊、學校又ハ病院ニ在ル間 (三)海軍病院入院中	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
戰時特別給與品	派遣先ニ到着ノ日ヨリ退應ノ日迄ノ期間給與ス (特例給與規則第一二條)	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
死傷病手当	陸海軍諸生徒死傷手当給與令ニ依ル	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
保護賜金	昭和十一年勅令第四六七號ニ依ル	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	豫備學生ニ同ジ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○判 決

判 決

昭和十七年八月十四日(金)
海軍大臣官房

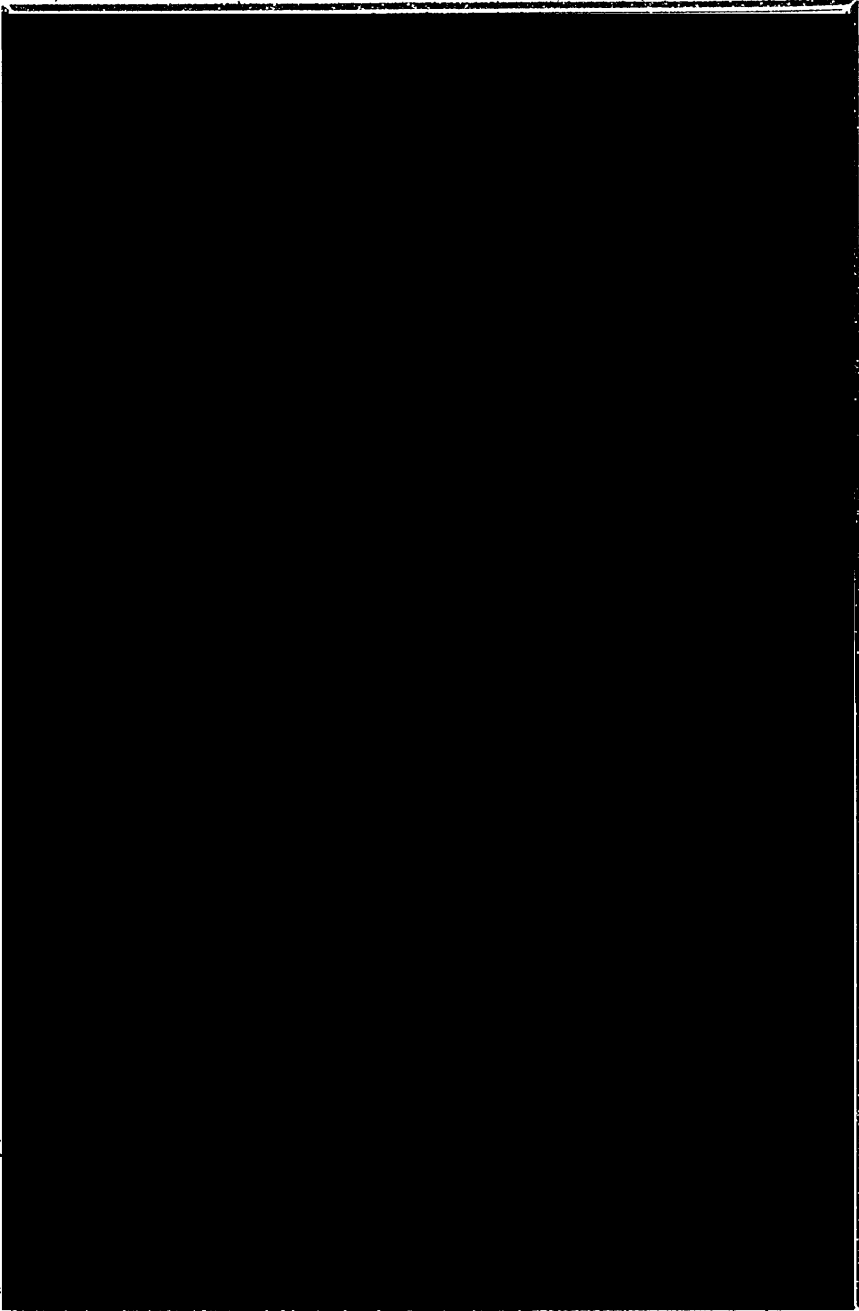
海軍公報 (部内限) 號外

0807

海軍公報 (部内限) 號外

0808

海軍公報 (部内限) 號外



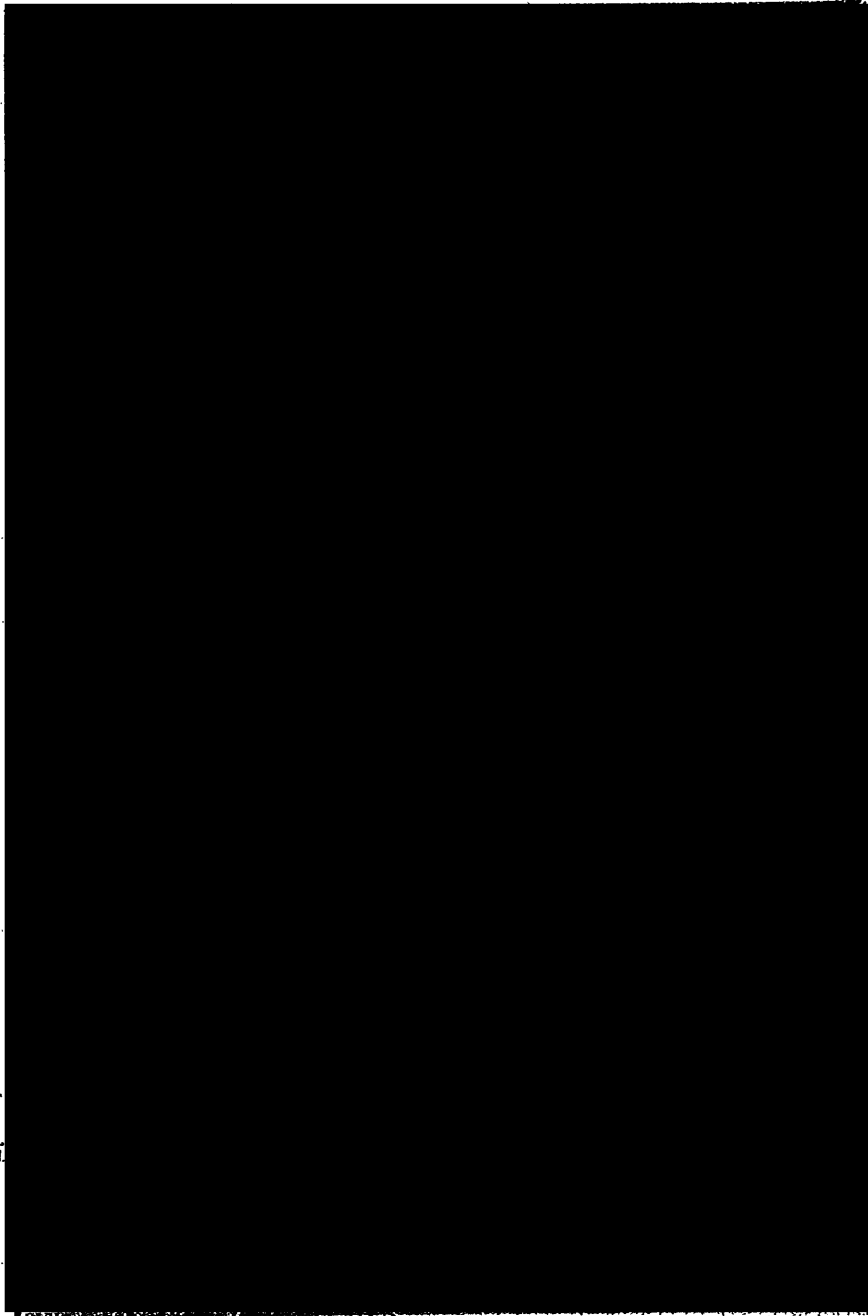
0809

海軍公報 (部内限) 號外

四

0810

海軍公報 (部内限) 號外



0811

海軍公報 (部内限) 號外

六

0812

海軍公報 (部内限) 第四千六百六十九號

昭和十七年八月十五日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一〇一七六號

大東亞戰爭中海軍軍需部長緊急必要アリト認ムルトキハ在庫ノ艦營需品、燃料、被服糧食又ハ此等ノ保管運搬用通常物品ヲ相互間ニ組替ヘ供給又ハ使用スルコトヲ得

手續其ノ他詳細ニ關シテハ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ヲシテ通牒セシム

昭和十七年八月十四日

海軍大臣

附 則

昭和十六年官房第六七三一號ハ之ヲ廢止ス

(參照) 昭和十六年官房第六七三一號ハ海軍軍需部通常物品會計官吏ニ艦營需品ヲ繰替供給シ得ルノ件ナリ(十二月二十九日海軍公報(部内限))

○通 牒

海軍公報(部内限) 第四千六百六十九號

昭和十七年八月十五日

八七九

軍需機密第三三三號

昭和十七年八月十四日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

各海軍軍需部長殿

艦營需品、燃料、被服、糧食又ハ此等ノ保管運搬用通常物品ノ相互間ニ組替ヘ供給又ハ使用ニ關スル件通牒

官房機密第一〇一七六號ハ物資不足ト各種統制強化ニ伴ヒ急速調達次第ニ困難トナリ來レルヲ以テ艦船部隊ノ新設移動竝ニ軍需部ノ新設擴張等ニ應ジ軍需部在庫ノ首題物品間ニ急速相互融通ノ途ヲ設ケ供給ニ遺憾ナキヲ期セントスル趣旨ヨリ發令セラレタルモノナルヲ以テ上記各物品ノ準備ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ組替(保管轉換ヲ伴フ場合ヲ含ム)ニ當リテハ在庫量、規格、價格、用途等ヲ充分考慮相成度、本號ニ依ル組替(保管轉換ヲ伴フ場合ヲ含ム)ハ無償ヲ建前トシ價格一件一萬圓以上ノモノ及中央統制品ニ

0813

對シテハ豫メ海軍省軍需局ニ協議相成度尙本號ニ依ル
組替ヲ爲シタルトキハ各品目毎ニ其ノ金額ヲ三箇月分
宛取纏メ海軍省軍需局長及海軍省經理局長ニ通報相成
度

軍需第二三八號

昭和十七年八月十四日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

運用長主管艦營需品ブロード液使用取扱ニ
關スル件通牒

本液ハ塗粧法ノ如何ニ依リ其ノ効果ニ著シキ差異ヲ生
スルコトアルヲ以テ之カ塗粧ニ關シテハ左記事項ヲ徹
底セシメ且ツ之カ使用法ヲ嚴守セシムル様特ニ配慮相
成度

記

一 ブロード液ノ特異性

本液ハ上下塗料二種ヲ木部表層ニ浸透セシメ其ノ接
觸ニ依リ(上塗ハ酸化劑トシテ作用ス)不溶性黑色
沈澱物(アニリンブラツク)等ヲ生成セシメ染色ス
ルモノナリ

二 使用法

- (イ) 甲板面ハ清掃ノ上充分乾燥セシムルコト
- (ロ) 下塗劑(塗布量約四一 $\frac{1}{2}$ 平方米)ヲ施シ充分乾燥
シタル後上塗劑(塗布量約四七 $\frac{1}{2}$ 平方米)ヲ施シ完
全乾燥セシメタル後更ニ二回乃至三回同一要領ニ
依リ繰返シ塗布スルモノトス
- (ハ) 塗粧後ハ充分乾燥セシメタル後必ス水洗スルモ
ノトス

註

- (1) 本液ハ(特ニ第一回塗布ノ下塗劑)乾燥セザル
ウチニ次ヲ塗布スル場合ハ木部ヘノ浸透充分ナラ
ズ遊離状態ニテ酸化スルヲ以テ雨水海水等ニ依リ
容易ニ剝脫ス
- (2) 上下塗料ヲ反對ニ用フル場合ハ上塗劑ハ元來染
着補強劑ナルヲ以テ染色主劑タル下塗劑ノ浸透度
ヲ阻害シ發色ヲ不充分ナラシムル虞アリ
- (3) 塗裝回数ヲ重ヌルニ伴ヒ其ノ液ノ一部ハ表面ニ
遊離化合スル爲靴裏ニ附着シ艦内ヲ汚損スルニ付
水洗スルヲ要ス

○ 辭 令

0814

第二海城丸機關長 竹田谷片二

囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三三〇海軍省)

秩父丸船長 堀部 忠孝

囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三三〇同)

石狩丸船長 溝口 兼造

(各通) 石狩丸二等運轉士 遠藤 恒四郎

囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(三三〇同)

支那方面艦隊水先業務囑託

江口 誠

自今報酬年額貳千百六拾圓ヲ給ス(三三〇同)

海軍少將 三並 貞三

海軍省事務囑託ヲ解ク(三三〇同)

臺灣總督府交通局副參事 口石 守次

馬公警備府ニ於ケル事務囑託ノ報酬トシテ金四拾五圓ヲ贈與ス

馬公警備府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三三〇同)

遞信局技師 椎名 清五郎

通信書記 高野 博

同 横田 角三郎

遞信局技師 岩崎 憲三

同 元木 勇藏

(各通)

遞信手 遠山 作治

第二聯合特別陸戰隊隊附ヲ免シ横須賀鎮守府附ヲ命ス(三三〇同)

染川 英彦

吳鎮守府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(三三〇同)

須賀 清

南西方面艦隊セレベス民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

山本 實

南西方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

小野 恒造

(各通)

飯塚 俊正

眞砂野 順二

津田 輝夫

南西方面艦隊民政部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上三三〇同)

正五位 加藤 泰同

第四艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三三〇同)

大塚 正夫

第二遣支艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三三〇同)

大塚 正夫

第二遣支艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(三三〇同)

海軍省事務ヲ囑託ス

海軍少將 大西 次郎

海軍造船少將 橋口 保孝

海軍省事務ヲ囑託ス

鐵道調査部技師 立松 和男

海軍省事務ヲ囑託ス

北海道廳技師 南部 一男

(各通)

同 國分 快

海軍省事務ヲ囑託ス

税關鑑査官 中本 清次

税關書記官 磯野 正俊

同 福田 信一

税關鑑査官 木下 勇男

税關事務官 中川 正英

税關鑑査官 三宅 忠平

税關書記官 川田 三郎

同 石原 次郎

同 鈴木 憲三

同 楠元 丈夫

同 下村 治

税關鑑査官 鎌田 利雄

(各通)

税關書記官 鶴 備 進

同 越塚 清志

同 藤田 茂

税關鑑査官 平野 良貞

税關書記官 松田 文藏

同 松浦 善太郎

海軍省事務ヲ囑託ス

海軍機關大佐 角田 常治郎

海軍省事務ヲ囑託ス

石田 義雄

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

小谷 壽

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

廣田 虎雄

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

小森 專吉

大阪海軍軍需部ニ於ケル業務ヲ囑託シ報酬年額四百

八拾圓ヲ贈與ス

吉良 勝

第五艦隊事務囑託ヲ解キ軍令部ニ於ケル調査事務ヲ

囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

三好剛太郎

第一遣支艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

海軍機關大佐 田崎 義

第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

漢 義 孝

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

鈴木喜久雄

第四海軍建築部醫務業務囑託ヲ解ク(以上ハ同)

海軍機關大佐 林 敏 之(艦本監)

(各通) 海軍豫備大尉 逆井 保治(雷驅潜)

海軍技師 根岸 秀夫(艦本監)

同 山本 茂(同)

第三十四號驅潜艇審議委員ヲ命ス

海軍大佐 堀江義一郎(艦本)

海軍中佐 折田 常雄(照月)

同 田中 正雄(艦本)

海軍大尉 遠崎 壽(照月)

(各通)

海軍中尉 平山 成人(同)

海軍機關中佐 鹿馬 竹千代(艦本監)

海軍機關大尉 白水 輝良(照月)

海軍造船中佐 塩山 策一(艦本監)

海軍技師 松尾 孝(同)

驅逐艦照月審議委員ヲ命ス

海軍大佐 堀江義一郎(艦本)

海軍少佐 小野 四郎(高波)

海軍大尉 押兼 正廣(同)

海軍中尉 吉峰 位置夫(同)

海軍機關中佐 大崎 行三(艦本監)

海軍機關少佐 川又 政信(艦本)

海軍機關大尉 新保 強(高波)

海軍造船大尉 河東 克己(艦本)

海軍豫備中尉 江田 高市(高波)

海軍技師 鈴木 義男(艦本監)

同 宇津見 謙介(同)

驅逐艦高波審議委員ヲ命ス(以上ハ品海軍艦政本部)

(各通) 海軍大佐 岡田 有作(艦本)

海軍機關中佐 岡 寅雄(同)

呂號第百潜水艦審議委員ヲ命ス

海軍公報(部内限) 第四千六百六十九號 昭和十七年八月十五日

八八三

0817

(各通)

海軍中佐 藤 本 傳(艦本)

海軍機關中佐 熱田 佐太郎(同)

呂號第百潜水艦審議委員ヲ免ス(以上ハ勅同)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先ニ關スル件

當隊内ニ於テ教育實施中々横須賀海軍航空隊普通科整備術練習生ニ對スル給與通牒其ノ他一般書類當隊ニ送付セラルル向多數アリ其ノ都度廻送處理シ居ルニ付自今必ズ横須賀海軍航空隊ニ送付ノコトニ取計相成度
(横濱海軍航空隊殘留隊)

0818